

後同嶽
編

執
志
譚

四

3147
4



3147
4

度間 櫻面 影草 紙後 帳

琴卷 下



逢州 執着 譚



神 度 著

初七

寄居虫油にて四竹の曲子を曳
於枝が懺悔物暗に母の再會の事

さて内所の五郎菝の柳巷の雑戸に疾も負せど難や圍を逃まて
りて逢州が先級と且とちと油にひれ包一すは仏壇の下にひく次乃
見ふさぬ風情ふてわさうう原逢州が殺されつる一條入田草の長も休
つる人のほをさめけさ程道さ五郎菝が隠家なれど其更を風説
とらりのちやう今へ斷公ちうわく権原平平杖父堂助をとめ殺多乃
こ下をあらめ終日酒酔うは日暮れをびてこが志くに列れさる五郎菝

執着 單卷 之 四

山 青 堂 藏

唯一人とやうなれづつくりありひめがまに我亦赤々とあり一依魂も富るに
つきて未利をえん思ふも飽ふぬ杜鵑花やまことあましく花柳の風
俗ゆえ斯る不法の志もつたへん我老の病去に野振つる珍まふれ
とありなれど花女とやせし我罪にゆる彼の思むも由振なれに似し昔
一ツ会にゆる憂をわづらひ其心を一旦の怒も棄てて他敬のどくありしを
これるやノ偏見やうせめて死級をえんも寺院(華子)亡めて丁寧
の吊んとありひ定め流石の恩愛とてぞ門は丁度端々めわつてありし
和らひ死あくる帝門の画く武彦野のつまふれど花房をもちけりし死
死貞を今もなすくえん思ひあつた相度にも入る仏壇の前には
燈籠にげ鈴をもちやうい。南无阿彌陀佛生菩提をむめふつくとそな
つ。熱いれはよりのせん。杜鵑花のあつて逢州が在に暮るぬ怒を

あまど。血に塗れしるはりて下り。唾まめしる毒のまこりあふま。目半開い
て。怒気は睨むし山月より。女と捲ハ一目よりより。いもあつどちち敬うれ忙然
と一と碎るがとち。怪しくて羞に似し。稍あつて独言のつらあふ涙や
ひさうびりする庄袖のあびある鹿子目の中ひ杜鵑花が衣に疑ひも。又昨
夜もする提灯の紋といひ。それともひ究りにこれぞ正しく逢州まの死級
あり。りくろ老狸野子の我に着て障壁をやもといやあつん。とん公乃迷ひ
く。燈火をちりくせ。右に丸これ逢州にまがびるありされが。あふ如行
せ。錯をやまづあがりては。同穴んと。走出せ。又立戻り。鬼や
せん。浦やせん。とれを魚燥。とらわの間に袂より。杜鵑花が玉帯うち散て。風
うちひくくは。克せん。昨夜の離状。とあつて。候各も文字もまめひ。ひ
かれて。あつ。公せも。其うらひも。い。と。あ。げ。て。壇。く。と。そ。の。玉。帯。の

唯一人とやうなれづつくりありひめがまに我亦赤々とあり一依魂も富るに

あるむねに曰

此のしがさうりくとも、田の草花は、若くは、自ら、妻あがらひも、
 さはく、く、おれん、ま、ゆれ、と、は、を、も、ま、ま、で、お、お、お、
 山吹の花の、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
 乃ねに、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 泣、泣、泣、泣、泣、泣、泣、泣、泣、泣、泣、泣、
 け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、
 か、か、か、か、か、か、か、か、か、か、か、か、
 しく、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、

世にせし、か、り、ぬ、水、魚、の、奥、よ、と、む、む、の、を、い、け、り、
 と、横、ら、び、て、再、か、ど、う、れ、斯、る、杜、鵲、花、が、あ、ろ、と、知、く、
 さん、と、せ、い、愚、さ、ま、我、何、の、顔、あ、り、て、再、彼、に、ま、ま、
 主、君、良、治、公、寵、愛、地、一、異、る、る、逢、州、が、う、殺、害、を、し、
 良、治、公、を、逢、州、が、敷、色、に、ま、ま、う、ひ、媼、酒、一、耽、り、
 止、ま、を、り、ぬ、む、花、彼、を、殺、害、せ、り、ん、ど、つ、ひ、あ、ら、
 の、方、狂、死、し、る、お、ひ、と、く、仰、巷、に、も、到、り、ぬ、む、
 日、か、短、慮、し、る、り、れ、名、成、負、せ、し、ま、つ、る、に、似、し、
 海、の、う、ら、れ、に、比、し、ま、も、む、げ、あ、ま、う、り、あ、る、
 して、ま、つ、つ、ま、ど、却、て、内、谷、の、巷、に、し、づ、る、不、良、の、と、
 せ、し、る、せ、し、る、我、る、が、り、
 山、清、堂、書

つらん愚言や言ん神はも仁よもんをまこれしや念口惜そく袖を食捌置に
 ひき伏女やううと歎き少時あううと両肌押脱氷の又枝をなほ逢州が首に
 うちひらひとくいと涙をながし夫人の定業不定業非業不非業の不ふにても
 小冊の丸雪草の面遂はひらひらちのちやうも呼呼の刃不ど序令の老の
 あううとくふふと捲ぐ短気ゆえにううと最期をとけあひさそを念ことも
 けりひらううと斯なるも宿世のやそくとあはれうめあひ公残さると成仏あれ
 先我も切腹してひがれ罪を續ふべとソもあんも脱けけし袖に白刃を押し
 するさ。左の小服は突立て。右の傍腹まで一文字にひきまわると折こてあま
 お核に痰負ふる杜鵑花を竹架のくさくさふせ喘き走り来り。五と捲ぐ
 門にうらうら。宿屋も破るまううとくさくさ。爰あけてくさあけてくさ
 喚れどとてくさるものなげきまをかを窺く押入。襪をづれくひらく



罪にかあはりて合破とあけ。鳥菘が自殺せしをさうらうも。かれやまうのみ
 一言さう。つと外に出。杜鵑花を竹たよりいさし出。口へのこのこ
 消くも。鳥菘が傍に誘ひぬ。こて。杜鵑花の若く息のきこさう。我夫
 へ入行等也えあうて。生害のあまふと回れて。鳥菘莞尔くうら笑。こ我
 つと。ここのこもあれ我切腹をさ由縁りつひつ。眼をうつと逢刈が
 首をさうか一言さむと。鳥菘が精もいと面をいと顔をもむけ。暫く
 して。ここのこ。つと杜鵑花つむと。これ。鳥菘が顔色例さう。殊
 衣。鮮血のま。こ。一定。你さ由縁ありん。疾治して。こ。こ。最
 くるげ。其時。お。進。杜鵑花をさう。お。持。つ。ぬ。さ。と。お。も
 一切。ひ。も。も。国。方。の。り。て。只。管。の。の。お。の。さ。面。の。さ。は。む。さ。と。と
 ひ。ゆ。こ。こ。さ。さ。言。願。め。お。さ。さ。入。る。其。暇。の。呀。と。一。声。意。消。く。を。せ。さ。う。

れば。悲。や。る。雪。の。書。を。撞。破。し。杜。鵑。花。ぬ。も。は。自。害。と。つ。お。サ。り。一。夜。削。の。く
 ま。書。著。の。と。成。る。鮮。血。の。紅。さ。う。鳥。菘。大。の。お。さ。う。も。が。紙。子。細。あ。る。と。
 う。ち。ひ。を。さ。う。て。お。居。る。お。枝。が。ぬ。て。ひ。り。さ。う。ま。ま。同。章。抱。お。と。何。恨
 あ。つ。こ。生。害。の。お。さ。う。の。さ。う。と。紙。子。の。お。さ。う。も。同。の。答。は。杜。鵑。花。の。逢
 州。の。情。人。を。ぬ。さ。れ。その。怨。を。さ。が。う。暗。に。ま。だ。殺。害。し。人。知。く。と。さ
 かり。こ。も。天。道。の。つ。て。中。の。の。ん。遠。の。の。逃。ま。ぬ。罪。外。は。と。お。う。と。ひ。あ。は。り
 め。腹。切。く。死。お。う。ん。ぬ。と。涙。一。滴。お。と。も。せ。さ。う。潔。け。い。ひ。ひ。さ。や。噫。東。性
 こ。て。争。ひ。ま。さ。う。流。石。の。武。士。の。妻。や。う。と。お。い。う。さ。紙。悲。く。て。せ。ら。て。息
 あ。つ。こ。の。う。ち。の。お。は。り。は。今。を。余。皮。を。も。惜。ま。せん。と。病。氣。と。い。う。う。竹。た。よ。り
 乗。せ。い。さ。う。来。さ。る。甲。お。も。さ。う。鳥。菘。の。お。は。切。腹。く。く。流。血。緑。の。お。と
 悲。歎。の。涙。袖。を。潤。し。つ。と。杜。鵑。花。ぬ。も。悲。中。を。人。を。害。せ。し。と。い。ひ。ぬ。さ。う。

これやうにやうなうの才の如うて。死んともそ替ひのひらひら。こころの本
 意をくわびてうらむ。公底をひあてられ。社能花も漸篠のよ。喃中も花
 どのお枝のよ。斯知をせりうらむつむも益を。女の公も最浅く。星景土
 右のを言様も。金さりの人と替ひあは。加之筒板の由縁あり。逢
 州ぬしと小袖を脱入。外はあはれ人々をうらむ。家致其場におらある離状
 を拾ひあげ。君の怒の及れ人遠あると成。偷得く。竹等おひめぐを
 公。怜れいせ。才の罪人悔の八千とびらわれども。あひも諸の海士の
 川。さうり成思。公の房のうら。君の終入を才の若る。女めうら。自害うら。
 吃のうらうら。搔切く。才の如く。公のうら。彼切く。死ぬけ。社能花を。少
 へ不便と。おひひら。未まの。ぬ夫婦。ご。ご。サ。せ。く。ひ。と。後。い。
 公。如。は。の。う。公。花。も。疾。撫。も。ひ。これ。ご。ご。今。と。なり。お。枝。の。の。ひ。ご。も

文。才の今。うら。面目。の。僅。の。金。の。さ。う。つ。う。う。お。此。の。し。が。仇。と。なり。う。う。ろ
 を。千。に。ん。ご。う。なる。金。成。り。て。ん。謀。と。ん。浅。さ。ぬ。の。志。の。深。さ。が。そ。う。なる。人。公。
 憎。こと。お。ひ。あ。ま。我。妻。な。が。う。も。大。恩。ある。才。を。討。果。さん。と。せ。冥。罰。の。忽
 地。才。の。報。ひ。を。う。候。の。も。主。君。の。禱。を。う。う。逢。州。の。成。殺。せ。ん。主。を。討。
 に。育。ま。ご。極。重。悪。人。公。他。方。位。唯。生。沐。陀。と。き。く。時。の。唯。念。仏。お。そ。頼。り。ま。
 さ。う。生。死。の。雲。を。消。除。し。階。光。の。華。基。同。定。の。宝。地。に。く。再。命。せ。ん。と。後。入
 息。を。吻。と。つ。さ。苦。痛。を。と。せ。し。眼。を。と。り。や。社。能。花。の。才。の。さ。う。で。你
 疾。と。も。か。む。む。殊。の。い。う。う。罪。か。り。才。ぞ。行。卒。痂。の。養生。う。う。わ。ら。く。跡
 を。吊。く。う。う。う。は。も。是。か。ら。う。ご。ご。と。言。う。と。て。刀。を。引。き。う。さん。や
 とも。其。の。お。枝。の。さ。う。う。つ。れ。お。ろ。う。の。夏。を。し。ひ。ぬ。の。二。葉。の。常。盤。に。て。一
 才。芒。枯。や。も。野。中。の。葉。山。子。零。漂。も。独。り。う。ぬ。世。の。う。ら。ご。ご。才。が。ト。死。去。

すまねれち代とまはせよとれておりうら
くさせりともく社母一母や

今世能娘浮世忘の今やうをうまひと本朝廿四考のこえう

と貝ひろろが日頃好と夫ろの姉ひまほ不奇色も清とて奥あつてふサあれ
といひ憐れまよさくく。かろかりう神をとも不の四つむの男と二八斗
の娘と門の外に傍徨彼男慕く嗽してあれ風流サに悦四つ竹のうち合せ
昨夜の上代今もくに貝ひれを奥し小哥と世よまろ魚屋梅高の草子
がよく三弦の奥山北雲がふそくぞれば拙さうざらふサての後まらせぬ
と。とまひん似ざ板扉の毛ぬのちるよれおとて三弦をいとよんがくひれ
けうけいまぶ娘の愛数つとて四つ竹を双のふらうち合せつとてひる
見の袖の娘のあまふあまふとて説法がふさるまうとて茶の頃おひるうら

水を洒つ小枝をくくめ。卧具の錦の室咲に。こけべ色香のいと
かろまはせと花の都の柳巷の夜とん時に逢州自他どに愛つ
まねれつ錦本よりも。門のうら人オもくぐをまてく男一平よ
緒絶の指の長をあまの松甲斐もたふ。外に出羽つくと柘
栂の小柳とるるもまつさ彼らせく。茶屋がむらひの提燈を。
屋をて連る音くといれ。まのび逢津のそのりつといや。端よな
柳のまるとれ松の。まよ越ここの月なうまくのあふや岡を
涙のちあいらつてゆくオハ血けのむら

勢州同山にこくく小少。同山田川崎町に住し魚屋梅高草
子とつる者の作なる。頭々音頭小少もおまど作者へ梅高川
崎町よ後かゆえに川崎音頭とも。伊勢音頭とも言るるるる。



五郎藏
 杜能花
 こまき ちやんちやんち
 鼓弓に尺八の
 ちえ ちやんちやんち
 笛を吹合せ
 死を潔く
 うと

九

上



开小便無用

幸

九

三弦の奥山桃まといふ者午をくぐりしは桃まの本師職や
 よし手か蒔まゝの或人の隨筆の足えり。其時代の異るべ
 とは小かゝの作者にも、ある草子か各をわづらひしこと
 因のまゝ

夏声のちり花の耳を敬。時もそれとておとけ唄へ小かゝの逢州ぬい乃墓
 かくまゝの才の上を。何地の何人う作すらん。言はれ
 あそ恨おろし。嗚呼善しとく悪とらん其人の各を甚にりせし我短気
 けり起りて怨べき人もまゝし。又後悔の涙にこそ油うち絞るをとお他
 の時雨と星あうり。あすの本を採ひろげ。さあかやも人畏るが逢州の定終お
 び。一ま不憐まともうに侍ふと。大声の叫り。又三弦を弾出せぬ娘の声も
 悲しく。斯どくみひびく

逢州若しこ声をあげ。是喃少時まらちめ人妾に何の外はあり
 て。かゝる夏めりんせのふと。節つぐ叫べとあせりけむ。何の由縁
 とふとあゝとや我とちんがの角も。あうぐりめのとみ
 かし。仇一字各も夏まるとせむ。共のうを世を流白髪まで
 けりくべんめと一折きひ阿波の雪戸のあひ見ぬ暇いよそ
 の浪風かきかぜとちつ。他のまがめと散ゆく花ハ妾まら
 しては才も共の死てうれくる各を流すのへ。まぶ思出
 と言つ。氷の双胸をつらぬき。あをちら昔む光景をさるう
 も。流石今の惜まれて。節くも刀の首かさおとし。性方志れ
 どの落失々まらば未練老とくく。まははく笑のぬ人ぞ
 ちりりけり。定に逢州が定終の定終哀らうとも中くよ。

かきとてあつらひのちまうりける

あまのつとめ入らば花の。あつらひのちまうりと推量して公正逢州主とあまのつとめ私
 夫に殺さるるを思ひまゝ。刺その人をも。未練と誹るも其人の口と知るねん
 まへにけしと。妻も今宵死あつらひ。明日のつとめ悪名をやはけのうへに負と
 りんあまのつとめあつらひのちまうりて。この声のうらやうはまゝ。お枝のいと理あつらひとあまのつとめ
 をあつらひのちまうりて。油のうらやうはまゝ。お枝のいと理あつらひとあまのつとめ
 ちやう。唐の三鉢より出。門ひとあけて。いざお枝のいと理あつらひとあまのつとめ
 へ深く奪ひひら。編笠の後よりあつらひ。面へ白地にあつらひ。白やうはまゝ。
 彼の男の耳に口をよせうら密治く。小柴垣のふらうに力を潜内のやうを
 をあつらひのちまうりて。お枝のいと理あつらひとあまのつとめ

者へあつらひ。捨果一袋が有。存命あまのつとめ在世に惜まらる。あつらひのちまうりて。
 ける哀れをえん。とて。妻去りて。自害し。死に。あつらひのちまうりて。今とあつらひ
 つみ出るも。面をうら業のへけし。懺悔の罪も。あつらひのちまうりて。今とあつらひ
 せむへ。妻へ原丹波國氷上郡。柏原の。あつらひのちまうりて。今とあつらひ
 けし。良治公の側室時。名。あつらひのちまうりて。今とあつらひ
 出まへ。往應安三年。夫の本の。あつらひのちまうりて。今とあつらひ
 都が。あつらひのちまうりて。今とあつらひ
 是守の。あつらひのちまうりて。今とあつらひ
 危方。あつらひのちまうりて。今とあつらひ
 つ。夫の本の。あつらひのちまうりて。今とあつらひ
 目。あつらひのちまうりて。今とあつらひ

味とて。親類血族を肥しよむ。刃のおきとまのろくさきまのれは都の赴つ
 田字草の長の老女とやう。逢州主のお徳を。熟夢傳の淀よりむきあ試
 透しあさし。園の一存のとうつひも。逢州ぬいの爺ことや。吾邪しつら
 似もやうと。各も寄居虫とよびあて。不佞の老と養育の姉妹の
 けりしひも。最睦しくさだあさし。如けこの由縁ありて。今も在れも知
 らざりて。言出しては。逢州ぬいの赤心は。此方の善智識勿地
 悪念發起して。善公のふ立ちとま。我方へ連あさし。逢州ぬいの媚女の徒
 ふまこと味つ。刺ゆくえまきま。流石の妾もつひかぬて。公のちらふ
 らもを合せ。逢州ぬいを伏拜。さうぬ体にして。おのれは。おのれは。後の
 宇の善公の良治公の側室とやう。長がりといく。各をを。一条の
 もつて。入りやうめ。妾も其夜に公もつて。歩欄に。夢居るが。悉か。の

人のわが。狗のわが。焼鉄を。ささる。うも若。て。寧娘の對面。只
 管賠話。と。いひ。あ。障子。ひ。け。あ。不。思。美。や。姿。へ。さ。さ。往。方。ち。ま。ご。
 後の。サ。ぬ。お。れ。ぞ。時。の。怨。恨。か。と。妻。が。本。意。を。さ。さ。さ。う。さ。う。去。り。
 の。思。を。報。う。い。く。逢。州。ぬ。い。を。い。つ。つ。実。の。娘。と。冊。に。夫。さ。入。り。さ。
 は。候。と。又。も。戻。り。烟。う。ま。ふ。負。も。サ。て。い。と。理。な。り。と。悲。候。油。を。恨。
 々。か。る。サ。り。外。面。に。傍。徨。お。ち。の。娘。を。立。ぬ。だ。さ。て。中。を。さ。め。く。と。内。よ
 う。首。の。け。け。さ。る。体。を。さ。さ。出。は。是。見。お。の。け。や。と。お。枝。が。お。い。さ。
 出。く。ま。ば。訝。気。に。さ。う。て。古。金。櫛。の。母。蔓。形。け。ち。の。一。寸。八。介。の。正
 觀。音。の。尊。像。ハ。ま。く。と。や。と。い。へ。娘。ハ。お。枝。が。顔。を。熱。ま。り。妻。ハ
 園。の。一。存。が。娘。寄。居。虫。と。い。ふ。の。よ。け。が。お。枝。が。体。を。さ。さ。せ。め。へ。い。ひ。筒
 とうりのわが。疑ひもなき。母上。さうん。三才の。り。淀の。夜。秘。に。列。ま。の。

あげごう。箱ありてつひくろく。年頃暮ひ。母上姉上。回舎のあひなぐら。ほ
 まれば。光景。宣ふて。は。つ。の。何人を怨ん見も。又宿世。うりの約。本。あ
 め。あ。昨日。逢ふ。笑ひて。三人。は。す。顔と。顔と。は。あ。さん。い。一日。あ。子
 くて。あ。あ。あ。是。喃。姉。人。家。居。虫。が。う。ね。て。来。り。け。ん。ぞ。夜。妹。よ。ん。き。と
 一言。い。い。あ。ま。下。逢。州。と。い。は。長。君。が。昨。夜。人。に。殺。さ。ま。つ。と。略。行。人。の。い
 を。曲。子。に。つ。う。て。切。平。も。う。と。も。家。の。門。よ。う。ら。あ。う。ぬ。こ。ん。言。ま。ぐ。ら。
 姉。の。う。れ。を。世。に。う。こ。い。の。つ。や。る。業。う。は。ま。い。と。お。枝。が。袖。に。こ。り。ま。ぐ。ら。歎
 果。ぶ。り。の。足。を。ぎ。ま。ぐ。切。平。の。さ。う。う。て。こ。悲。め。い。宣。り。ま。ぐ。ら。姉。上。志。見。さ。ぬ
 と。つ。と。成。知。し。せ。め。い。ね。い。ね。方。ま。い。其。曲。子。が。媒。て。母。人。に。回。舎。の。い。い。ん
 姉。さ。其。の。導。め。い。疑。ひ。ま。い。あ。う。い。一。有。君。の。宣。れ。の。縁。由。を。母。人。よ
 き。ま。人。あ。げ。父。の。仇。を。討。め。い。こ。て。肝。要。なり。と。い。ひ。思。ひ。ま。ぐ。ら。お。枝。曰。一。有。さ

の非命の死の逢州。や。一。間。の。長。に。お。が。う。い。ん。を。帝。門。を。隔。て。夢。居。る。が。款。の
 後。を。ま。ん。ま。う。ま。い。と。や。ソ。の。い。て。索。身。と。言。ま。の。う。ら。う。家。居。虫。も。涙。を。お。ひ
 あり。ぞ。と。い。へ。る。禮。持。も。あ。う。ね。じ。隠。形。の。術。と。う。い。ふ。形。を。隠。ま。曲。者。あ。を。
 雙。言。教。の。り。よ。い。ん。父。の。今。般。の。お。が。う。と。夢。に。う。た。捲。大。い。お。ご。う。ま。日。れ。昨。夜
 土。ち。遣。つ。を。付。り。せ。い。も。彼。隠。形。の。術。に。依。り。な。り。あ。る。研。し。着。く。ん。彼。が。研。者
 か。し。ん。も。ま。う。べ。う。い。も。い。も。を。つ。け。く。足。の。ひ。ね。お。り。い。ま。も。あ。れ。お。の。い。う。と。刀
 を。切。目。な。ぐ。い。れ。ま。い。ま。杜。能。花。も。若。い。げ。に。顔。髪。う。り。日。け。つ。い。く。細。声。を
 う。う。立。絆。の。す。い。ま。う。く。言。い。も。い。け。右。の。袂。の。土。ち。う。つ。う。い。る。百。両。の
 金。あり。妻。夫。婦。が。死。あ。う。ぶ。も。負。目。の。こ。う。は。は。家。居。虫。女。郎。に。あ。い。せ。て
 才。の。あ。い。ま。い。貢。貢。も。入。今。の。あ。草。む。ひ。あ。く。と。け。う。ね。と。空。言。い。お。せ。よ。う。う。捲
 かの。に。難。状。を。か。う。つ。う。う。後。世。の。迷。ひ。と。な。り。あ。ん。と。女。の。針。糸。よ。お。り。い。ま。う。う

在るべしあはれぬ。曉の傾るひ家路のよそへ列ま去り

非人の衣に良治雨の小止をまのつ

袖乞の娘茶をよめて、良治まのつ事



扱も其後待河巴。思良治ら其の余度もあつぬままでいふ言とあつぬあじ苦
多々。一日小獄。物人かきかめり。流るるひ山前。いささこ出てやがるる君あはし
め。こも。頃日所。の五郎彦。行等の恨あつて。田字草の持。君遠州を殺
害せし。甚の風流あり。小子被。札に往し。詳の。と。誠。果べし。と。いふ。こと
巴。思。あ。う。ら。ひ。そ。と。て。そ。我。も。風。も。安。也。今。青。階。の。曲。中。に。い。ろ。う。待。の。や。う。法
探。向。へ。し。こ。こ。小。獄。の。物。一。人。を。俣。し。忍。び。か。の。教。を。と。ら。出。書。ち。う。の。あ。る
五。条。坂。の。比。方。な。り。堤。の。守。に。さ。り。あ。り。ま。け。り。の。さ。の。さ。の。さ。の。流。に。さ。り。ひ。て。燭。燈。と
笑。乱。ま。さ。る。梅。の。大。樹。あ。り。巴。思。少。時。樹。下。に。傍。皇。刀。の。柄。の。扇。も。ち。か。け。遠。直。を

やうむま。新柳。烟を合。其草。雨を帯。て。舞。病。多。う。時。に。そ。吹。風。に。つ。ま。た。女。を
花。の。水。の。隨。意。流。き。中。を。う。ち。た。り。良。治。殆。與。い。ろ。前。庭。の。落。花。の。雪。の。と。く
な。ま。で。も。ま。の。重。と。わ。く。と。扇。を。も。ら。く。拍。子。を。朗。詠。ま。し。ま。さ。り。忽。地。脊。の
か。の。声。あり。山。復。深。樹。の。昏。に。似。し。ま。さ。も。月。の。ま。ま。傾。む。と。う。う。を。中。あ。る
か。よ。く。や。ま。あ。つ。る。の。二。八。を。か。の。少。女。は。中。水。を。桶。に。扱。さ。り。彼。も。花。に。と。れ
て。イ。や。う。熟。初。る。よ。紅。粉。を。粧。つ。れ。ど。も。天。性。の。美。形。玉。の。と。く。絶。て。髪。柳
も。ら。う。も。と。ん。之。海。松。の。と。く。乱。ま。さ。る。思。髪。も。う。ろ。ろ。ひ。あ。り。て。い。と。ま。り。あ。じ
け。な。り。あ。ら。ま。ど。も。巴。思。主。従。と。類。を。も。あ。せ。め。い。の。竹。笠。を。扱。に。れ。壯
いて。埋。む。め。ぐ。り。立。こ。う。ぬ。良。治。も。あ。つ。急。ぐ。と。路。を。わ。づ。行。等。の。の
ぞ。と。く。彼。少。女。の。後。に。つ。い。く。三。丁。を。あ。り。往。ら。る。が。比。野。の。ま。ま。市。中。に。遠
く。竹。樹。蒼。翠。に。て。地。石。鮮。明。し。う。あ。ら。ひ。ま。や。か。る。雨。静。の。佳。境。在。ん。と。い

とちり試みけつ 行つて せせ 荒れあきつる 小家あり。小織と助曰はる。小織の
 小女が隠家とわづらふ。彼がふまおぼし 竹釜折戸にかけおれり。頃日
 往交する道まが。は 刃の家あると試みけつ。竹釜の人の 栖家はや守る
 べしとひかりあり。其雨俄にうりぞいにおどろれ色のそよく 晴間を待ども。



小織の女
 小織の女
 元ハ碎月屋の
 前名美川
 後名百人一
 せに

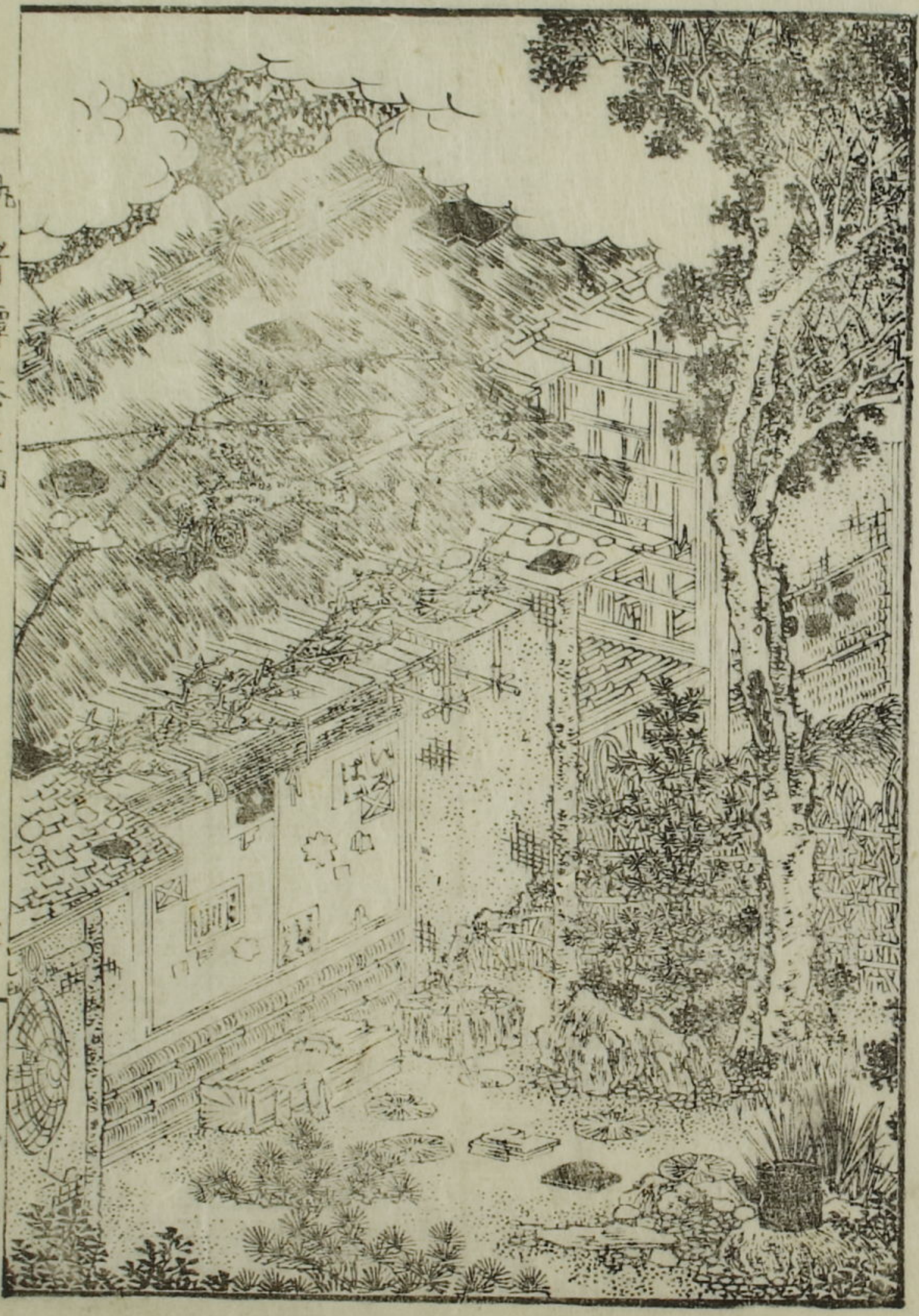
は八重雨油釜の玉を散
 し。丹塗頼の晴べしれを
 時に破窓より香煙細く
 立ちぬ。風暗香をおろ
 ぐまが良治辺をそめぐじ
 けい小織と助曰はる。我花を
 するなり。賤の女は似けなく。

小織の女



小織の女

不こと宣ぬ。そやくとさく 答ては時日色全く 後いそまふ。帝好して 序ひ出
 折戸押ひく。は 別高のつるも 弱女なり。小織と助丁寧の礼をば 小織
 が 主君所用ありて 五条坂のそとりの 赴んとま。ゆく 俄なる 雨のあひ。不こと
 往くがひひなり。ほどく 長かひく 不程 近きまが 彼礼の 走ゆに 傘持さる



巴之頭五條坂の
かみざら
通路ふく
かみざら
寄居虫
かみざら
家に
かみざら
かみざら

つれ 夜露の衣最寒し。袖とまでなりさざり。霞をうたへて。知れずら。
亡父の若くし時よりして。暗し道なき捨ちやふ。霞を憐れ。高城悲
も。されまやまを学びぬ。つらひつらひ。巴。堅益嗟嘆。孝公とのひ美
形とのひ勝者らぬ。弱女を埋本と。やまそ。ぞ口惜。さ。ま。あ。そ。先。の。由。之
あ。人。ま。え。う。け。つ。れ。一。樹。の。蔭。に。雨。を。防。一。月。の。流。を。汲。て。入。む。ひ。の。か。さ。し。ぬ
縁。と。伊。の。で。其。方。の。よ。ま。え。ぬ。く。芳。茶。一。服。所。を。せん。と。宜。く。ら。少。女。が。依。も
刃。を。と。く。ら。ぬ。も。怪。妻。さ。依。と。依。さ。ま。へ。け。り。の。ろ。み。結。の。女。の。俚。さ。て。ま。え。
つ。で。君。の。と。ま。つ。ら。ん。ん。罪。は。し。ゆ。ら。せ。ま。へ。と。推。辞。い。ら。ん。良。治。か。さ。ね。ま。く
言。々。ん。夫。茶。の。和。朝。の。風。俗。の。と。花。車。に。なる。の。つ。ま。り。其。原。の。禅。学。の。出。で。
心。を。世。外。の。閑。境。に。植。げ。り。ぬ。推。摩。が。方。丈。よ。う。く。ひ。く。四。畳。半。を。圍。と。ら。ん。何
と。く。貴。と。賤。を。論。じ。ん。と。強。く。と。く。ら。ん。然。止。と。わ。ら。ん。と。再。三。の。望。の。少。女

か。今。の。拾。と。な。く。報。む。負。の。緋。服。紗。も。花。に。ま。が。ん。や。樺。炭。雪。の。白。炭。ま。ろ。く。こ。の。
ふ。り。と。し。む。げ。に。芦。屋。釜。か。る。簾。の。よ。や。世。の。夢。と。惜。で。高。藤。の。錦。の。縁。の。習
て。客。客。登。上。へ。鮭。川。の。茶。碗。さ。う。出。し。の。品。さ。て。づ。ぢ。ぢ。ぢ。濃。茶。一。杯。調
出。も。主。ハ。非。人。客。ハ。貴。人。跡。寄。り。茶。余。さ。う。良。治。と。て。づ。ぢ。の。夏。別。と。う。式。杯。し。
且。服。の。よ。ろ。し。糸。を。潰。か。う。く。喫。布。ま。と。と。存。く。不。思。茶。や。俄。に。眠。り。と。り。な。れ。ば。
温。床。の。良。治。臂。を。曲。て。枕。に。く。其。ま。の。眠。着。ぬ。あ。て。少。女。の。帝。門。を。ひ。ん。ひ。つ。
の。位。牌。を。と。り。つ。て。茶。を。供。い。焼。香。して。ね。り。こ。ろ。の。回。向。の。く。ら。ん。小。織。の。助
不。斗。その。位。牌。を。入。ん。ま。ら。俗。名。逢。州。と。書。つ。け。し。も。叔。ハ。江。村。も。逢。州。主。に。由。縁
あ。ら。ハ。方。な。り。な。ら。ん。某。が。主。君。と。や。ら。ん。つ。ひ。ひ。り。て。言。ま。を。止。す。少。女。云。ま。ま
ハ。則。逢。州。の。妹。客。居。虫。と。り。老。の。侍。ら。が。君。と。ま。ら。ん。又。行。等。由。縁。あ。つ。て。姉。人
の。正。式。同。せ。ぬ。同。の。く。ら。ん。小。織。の。助。又。曰。け。位。牌。を。と。り。入。り。街。境。の。く。ら。ん。と。

